

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0970102216		
法人名	医療法人 千秋会		
事業所名	グループホームおおり台新田		
所在地	栃木県宇都宮市台新田1-14-7 (電話) 028-659-7666		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年2月6日	評価確定日	平成21年3月17日

【情報提供票より】(平成20年12月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	11人 12人	常勤8人, 非常勤3人, 常勤換算9人 常勤6人, 非常勤6人, 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り 2階建ての1~2階部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	・理美容代, おむつ代—実費 ・光熱費—585円/1日, 日用消耗品費—150円/1日
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食 250円 夕食 450円 または1日当たり	昼食 350円 おやつ 円	

(4) 利用者の概要(平成20年12月13日現在)

利用者人数	16名	男性 名	女性 16名
要介護1	2名	要介護2	2名
要介護3	9名	要介護4	3名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85歳	最低 66歳	最高 100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大場医院, 越戸クリニック, 宇都宮中央病院, 社会保険病院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JRの線路沿いの住宅地の中にある2階建て、2ユニットのグループホームである。近くの公園に日常的に散歩に出かけて地域の方々や触れ合う中で保育園児との交流が始まったり、市民センターの催し物を生活の中に取り入れて地域の中での生活をつくってきている。開設時から「のんびり・楽しく・自由に」を掲げており、入居者と接する職員の様子や入居者間の雰囲気は、ゆったりとおだやかであり、理念にそった暮らしをつくってきている様子がうかがえる。管理者は職員と一緒にホームづくりをしていきたいと考えており、職員が入居者に常におだやかに接することができるよう、働きやすい環境づくりをしていきたいと考えている。時には入居者と笑いあいながら、おだやかな時間の流れているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果は運営推進会議に報告し助言をもらっている。また、定期会議で話し合いながら改善に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、職員に項目の考え方等を見てもらい、申し送り等でも話をしながら管理者が職員の意見を聞いてまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、広報誌も活用しながら入居者の状況や行事を報告し、参加者から助言をもらっている。運営推進会議の開催を入居者、家族、ボランティア等も参加するクリスマス会などのホーム行事に合わせて交流の機会をつくったり、救急法の勉強会を一緒に行うなど開催方法を工夫している。今年度からは運営推進会議に職員も参加するようにしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が訪問した際に入居者の様子等を報告したり、必要に応じて電話で報告・相談をしている。毎月広報誌を発行し、またアルバムを用意している。預かり金は出納帳をつけて金庫で管理し、毎月出納帳のコピーを送って確認してもらっている。職員の交替があったときは家族が訪れた際に報告している。今年度管理者の交代があった時には家族に挨拶状を出した。苦情解決のための体制・手順を定めており、ホーム、市、国保連、県運営適正化委員会の窓口を明記し契約時に説明している。クリスマス会などには家族のほか、運営推進会議のメンバーも誘っており、ホーム職員及び外部者と接する機会をつくっている。ホーム独自で家族へのアンケートを実施している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入しており、自治会長が回覧を届けてくれたりしている。神社の祭りや運動会などの行事に参加したり、近隣にある公園に散歩に出かけて地域の方と交流したり、近隣の保育園児との交流をしたりと地域の方々や触れ合う機会をつくっている。また、市民センターでの催しなどを活用したり、地域包括支援センターの介護教室などにも参加している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者の思いから、オープン時より「のんびり・楽しく・自由に」をホームの理念として掲げており、地域の方々と交流しながら、その人がその人らしく家庭的な雰囲気の中で、日々張りのある生活が送れるよう支援することに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲出しており、日常の申し送りや定期会議などで話し合いをしながら、理念の実践に努めている。テレビを見ながらゆったりとした時間を過ごしたり、市民活動センターの活用などもしながら楽しみをつくったり、その人らしさや本人の好きなことに配慮した支援に努めている。	○	開設からまもなく6年が経過しようとしており、入居者の状態等も変化してきている。また、管理者からは職員と一緒にホームづくりをしようとしている姿勢が感じられた。管理者・職員に若干の異動もあったことから、その時々に応じた「自分たちの大切に行っていること・していきたいこと」を今後も話し合っ共有していくことにも期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、自治会長が回覧を届けてくれたりしている。神社の祭りや運動会などの行事に参加したり、近隣にある公園に散歩に出かけて地域の方と交流したり、近隣の保育園児との交流をしたりと地域の方々と触れ合う機会をつくっている。また、市民センターでの催しなどを活用したり、地域包括支援センターの介護教室などにも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は運営推進会議に報告し助言をもらっている。また、定期会議で話し合いながら改善に努めている。今回の自己評価は、職員に項目の考え方等を見てもらい、申し送り等でも話しながら管理者が職員の意見を聞いてまとめた。		

グループホームおおりの台新田

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、広報誌も活用しながら入居者の状況や行事を報告し、参加者から助言をもらっている。運営推進会議の開催を入居者、家族、ボランティア等も参加するクリスマス会などのホーム行事に合わせて交流の機会をつくったり、救急法の勉強会を一緒に行うなど開催方法を工夫している。今年度からは運営推進会議に職員も参加するようにしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催する会議に参加したり、市役所に出向いて相談したり助言をもらったりしている。運営推進会議には地域包括支援センター職員に参加してもらっているが、困難事例について相談したり、地域包括支援センター主催の介護教室に参加したりと連携が図られている。	○	運営推進会議への参加も含めて、市の職員と行き来する関係をつくり、ホームの質の向上や入居者がより暮らしやすくなるための地域づくりなどに取り組んでいけるよう積極的な働きかけをしていくことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が訪問した際に報告したり、必要に応じて電話で報告・相談をしている。毎月広報誌を発行している。アルバムを用意しており、行事のときの様子などを見てもらっている。またホーム内にも写真を飾っている。預かり金は出納帳をつけて金庫で管理し、毎月出納帳のコピーを送って確認してもらっている。職員の交替があったときは家族が訪れた際に報告している。今年度管理者の交代があった時には家族に挨拶状を出した。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決のための体制・手順を定めており、ホーム、市、国保連、県運営適正化委員会の窓口を明記し契約時に説明している。クリスマス会などには家族のほか、運営推進会議のメンバーも誘っており、ホーム職員及び外部者と接する機会をつくっている。ホーム独自で家族へのアンケートを実施している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前回から今回にかけては、管理者及び職員の交替があった。管理者は従前からホーム職員であったが、家族には挨拶状を出した。職員が新しくなるときは、2人夜勤など研修期間を設けるなどして入居者への影響を防ぐ配慮をしている。入居者と一緒にお茶を飲んだりする中で入居者からホームのことを教わり、職員が徐々に場に馴染んでいくということを大切にしている。		

グループホームおおりの台新田

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内があった時には、希望を募り、主催者から人数調整を依頼されることもあるほど積極的に参加している。認知症介護実践研修などは経験年数等に応じて職員を参加させている。研修受講後は定期会議の際に報告するなどして内容の共有を図っている。また、参考資料を使いながら定期会議時に勉強をしている。定期会議には医師である理事長も参加している。ケアマネジャー資格を持つ職員が5名いるなど、資格取得に対する法人としてのバックアップもある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び全国グループホーム協会に加入し、研修・会議などに参加して情報収集・交換をしている。市内の他グループホームとの交流もあり、職員も見学に出かけたり、他の良いところを学んだりしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人に2日程度ホームに来てもらってホームの雰囲気を覚えてもらう日帰り生活体験を取り入れ、入居前の本人・ホーム双方の相性を確認しており、また必要によっては何度もホームに来てもらって本人の納得のうえでの入居になるよう努めている。本人の生活歴等を収集しながら本人に無理のない、本人のペースにそった支援に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることに配慮しながら、食事の準備、片付け、掃除、洗濯物たたみ等を一緒に行い、ゲームなどを一緒に楽しんでいる。職員は入居者と一緒に過ごす時間を大切に、感謝の言葉を掛け合っている。ホーム内には、ゆったりした時間が流れていた。		

グループホームおおりの台新田

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成時の本人の希望の確認、日々の生活の中での本人の意向の把握をしている。また、家族や関連事業所から情報収集をして、本人の趣味・特技などを把握し、入居者が自分のペースで過ごせるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望を聞き、職員が分担して介護サービス計画書を作成し、カンファレンスで検討したうえで計画作成担当者が介護計画を作成している。職員の担当制を取り入れており、介護サービス計画書の作成やカンファレンス等を通して気づきやアイデアを反映できるようになっている。また、必要に応じて医師や地域包括支援センター職員のアドバイスを受けている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月に1回、アセスメント及び介護計画の見直しをしている。その他に長谷川式スケールを使った評価を年4回行い、医師の指示をもらっている。また、入居者の状態が変わった場合などは随時介護計画の見直しをしている。6ヶ月に1回のカンファレンス、毎月の定例会議、毎日の申し送りなどで職員間の共有を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者が看護師であり、事業所として医療連携体制加算をとっている。また、本人の希望や家族の状況に配慮しながら、買い物や病院受診などに職員が付き添うなど柔軟な支援に努めている。		

グループホームおおりの台新田


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と話し合い、同意の上で法人の医療機関での受診を支援している。受診の付き添いは職員が行っており、体調の変化や処方薬の変更など必要なことを家族に報告し、適切な医療が受けられるようにしている。看護師に24時間連絡が取れる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応及び看取りに関する指針を分かりやすく作っており、家族にホームの方針を説明し、同意をもらっている。ホームとしては「可能な限り温かい心で寄り添い、この家でできるだけの介護を行わせていただく」ことを方針としている。	○	開設からまもなく6年が経過しようとしており、入居者の状態等も変化してきており、ゆくゆくは終末期の支援も具体化してくることも考えられる。今後もその時々入居者及びホームの状況を踏まえつつ、理事長が参加する定期会議等で重度化や終末期への対応について繰り返し話し合う機会を持つことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入居者一人ひとりにあつた声のかけ方、排泄時や入浴の支援時の配慮、必要とされる前に手を貸さない等、本人のプライドを大切にした対応を心がけている。訪問日にも職員が穏やかに入居者と接している姿が見られた。個人記録等は事務スペースで管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に決まっておらず、入居者一人ひとりのペースにそった支援に努めている。職員の勤務体制を勘案しながら近くの洋蘭パークに行ったり、ショッピングモールに買い物に出かけたりしている。レクリエーション等は、入居者と話し合っ、その日の天気やその場の雰囲気決めて		

グループホームおおりの台新田

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、お茶入れ、片付けなどを入居者と一緒に行っている。食材は週3回、スーパーにFAXで注文し、配達してもらっている。入居時に好みや食べられないものを把握しており、必要に応じて代替のものを用意し、入居者に合わせて提供形態も変えている。入居者との会話を楽しみながら職員も一緒に同じ物を食していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	医師の指示のある方は1日おきであったり、週2回・3回など一人ひとりに合った入浴の支援をしている。13:30～18:00ぐらいの時間帯で、30分から40分ゆったりと入浴できるよう支援している。入浴しない日には足浴や清拭をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできることに配慮しながら、食事の準備、片付け、掃除、洗濯物たたみ等を一緒に行っている。天気の良い日には近くの公園に出かけて地域の方々と触れあっている。カラオケ、体操、ゲーム、ぬり絵、裁縫などの日常的な楽しみごとと気晴らしの支援のほか、市民センターでの催し物など外に出かけての楽しみ・気晴らしの機会もつくっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くに公園があり、天気の良いときには日常的に散歩に出かけて地域の方々と触れあっている。また、希望がある場合には職員が付き添って随時買い物に出かけている。市民センター等、外部の催し物も頻繁に取り入れている。ホテルでの会食等、年2回程度の行事的なドライブの機会もつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ゆったりとした雰囲気の中で職員が見守りしながら鍵をかけないケアを実践している。外出傾向のある方には職員が付き添って一緒に歩いたりしている。		

グループホームおおりの台新田

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施しており、そのうち1回は消防署に来てもらって救急法の勉強も行っている。運営推進会議を避難訓練にあわせて実施したりもしている。地域の方にも日常的な付き合いの中で「何かあったらよろしくお願いします」と働きかけている。新型インフルエンザへの対応という視点でも食糧、水、栄養食品等を備蓄している。		
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の資格を持つ職員がおり、調味料の分量も含めた献立を作っている。一人ひとりの禁忌品や分量などをキッチンに掲示して、細やか・適切な対応をしている。水分量は特に記録化はしていないが、必要な量が摂取できるよう支援しており、昼食時にも職員がお茶をすすめる様子が見られた。		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時節柄、玄関には職員が持ってきた雛人形が飾られていた。室内は洋風のしつらえで、テーブルやソファをはじめ家庭で使われるような家具・調度品が使われている。気になるような光や音もなく、換気も適切に行われ、室内に気になるような臭いや空気のおよみ等はなかった。また、乾燥しやすい季節ということもあり、湿度管理にも気が配られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを持ってきてもらうようにしており、仏壇やイス、タンスなどを持ち込んでそれぞれの居室づくりをしている。居室は洋間であるが、人によっては畳を置き、布団で寝る方もいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。